

唱歌集の中の外国曲

——『小学唱歌集』を中心として (1)

櫻井 雅人

1. 『小学唱歌集 (初編～第三編)』

1872年に頒布された学制では小学校に「唱歌」(中学校に「奏楽」)が教科として定められたが、実施の態勢はまったく整っておらず、「当分之レヲ欠ク」との但し書きが付けられていた⁽¹⁾。伊沢修二らがアメリカに留学(1875-78)、音楽取調掛を設置(1879)、アメリカからルーサー・ホワイティング・メイソン(Luther Whiting Mason)を招聘(1880-82)して準備が進められ、1881-84年に教材も音楽取調掛編『唱歌掛図』および同編『小学唱歌集(初編～第三編)』⁽²⁾として出版された⁽³⁾。『小学唱歌集』に収録の全91曲(15番と16番はほぼ同じ旋律)のうち多くは欧米の歌謡から選ばれて、原歌詞の内容とは異なる独自の歌詞が付けられた。これらは「翻訳唱歌」と呼ばれることもあるが訳詞ではない。ちなみに、アメリカの唱歌においても既存の旋律を借用して新たに「教育的」な歌詞が付けられることが少なくなかった。すでに古くから賛美歌では行われていたことであり、19世紀アメリカの唱歌教育が賛美歌歌唱と同じ源から発展してきたことを勘案すると⁽⁴⁾それほど目新しい措置ではなかった。

『小学唱歌集』および解説書『小学唱歌集註解』⁽⁵⁾には出典・原曲名等がいきい付されていない。伊沢修二の『唱歌略説』⁽⁶⁾にはいくらかの情報が残されているが、いまだに不詳の曲が少なくない。本稿では、英米の資料をさらに調べてみることによって原曲について明らかになった事項がかなり出てきたので、それらをまとめておくことにした。以下、各収録曲について論じる。ただし、スコットランド歌謡からの曲——第18「うつくしき」、第20「蚩」、第24「思ひいづれば」、第30「玉の宮居」、第43「みたにの奥」、第46「五日の風」、第56「才女」、第81「きのふけふ」、および第82

「頭の雪」——については別の機会に論じる予定であるので、ここではそれ以外の歌を対象とする。また、『初編』にある芝葛鎮（ふじつね）作曲の第31「大和撫子」および第32「五常の歌」、メイソン作曲の第33「五倫の歌」も考察から省いた。

2. 『初編』収録曲の原曲

『初編』では巻末の第31、第32、第33を除いて既存の外国曲を借用した。

第1「かをれ」その他

第1「かをれ」から第12「花さく春」まで、および第14「松の木陰」は、楽曲というよりは音階などの練習教材であり、メイソンの『ナショナル・ミュージック・チャート』（第2シリーズ）⁽⁷⁾からそのまま旋律を借りた。対応する原曲の題とページを示しておく。

1「かをれ」	“Lovely May” (p. 1)
2「春山」	“Nature’s Fair and Bright” (p. 1)
3「あがれ」	“Bells Do Ring” (p. 2)
4「いはへ（祝え）」	“Sunshine Bright” (p. 2)
5「千代に」	“Fair Spring Days” (p. 3)
6「和歌の浦」	“The Sun to Cheer Us Brings the Day” (p. 4)
7「春は花見」	“Trust in God” (p. 4)
8「鶯」	“Let Us Sing a Merry Lay” (p. 5)
9「野辺に」	“See How the Setting Sun” (p. 5)
10「春風」	“Kind, Protecting God in Heaven” (p. 8)
11「桜紅葉」	“Though My Cot Be Poor and Scanty” (p. 9)
12「花さく春」	“Birds That in the Forest Throng” (p. 10)
14「松の木陰」	“Trust in God” (“Tho’ I wander blindly”) (p. 11)

これらのうち第2を除く12曲はメイソン編『新第2ミュージック・リーダー』にも、『プレパラトリー・コース』⁽⁸⁾には数字譜で第6と第8以外が、掲載されている。「鶯」以外はドイツのクリスチャン・ハインリヒ・ホーマンの唱歌教科書から転載されたという⁽⁹⁾。メイソンはすでに1870年の『第1ミュージック・リーダー』⁽¹⁰⁾に第1（歌詞は“Children Go To and Fro”⁽¹¹⁾）、第3、第8を収録している（ただし、調性は違う）。メイソンが筆頭著作者である1896年の『教育音楽コース第1リーダー』⁽¹²⁾では、

わずかに第1のみが別の歌詞 (“Sing with glee”) で収録されていて、さらにその改訂版である『新教育音楽コース』⁽¹³⁾ともなると、メイソンの名前が著者名から消え、これらの曲は一つも残っていない。

第13「見わたせば」

「むすんでひらいて」の原曲で、系譜については海老沢敏が『むすんでひらいて考』⁽¹⁴⁾で詳細に論じている。アメリカ版「ローディーおばさん」についてはシックバートの論文⁽¹⁵⁾が参考になろう。また、筆者は『むすんでひらいての謎』(CD)のノート⁽¹⁶⁾でアメリカの民謡版に関していくらか補足をした。海老沢は、メイソン他編の『第4ミュージック・リーダー (簡約版)』(1878)に賛美歌の“Guide Me, O Thou Great Jehovah”として収録されていることを指摘して原著の楽譜図版も示しているが⁽¹⁷⁾、これは当初1872年の非簡約版⁽¹⁸⁾に載ったものである(楽譜は同一)。この節回しはクレイマー版のピアノ曲に近いもので、「見わたせば」の曲がアメリカの賛美歌を經由して導入されたことには疑いがないものの、直接の出典についてはまだ議論の余地がある。

アメリカの唱歌としてはすでに1840年の唱歌集に採用されている(ついでながら、アメリカの公立学校の音楽教育は1838年にボストンで始まった)。これはローウェル・メイソンが編集した『ボストン学校唱歌集』⁽¹⁹⁾で、その中に“Greenville”と題して“Far from mortal cares retreating”(John Taylorの賛美歌)で始まる歌詞と組み合わされている(ト長調3声部)。GREENVILLEという曲名はローウェル・メイソンの『ボストン・ヘンデル・ハイドン協会教会音楽集』(*Boston Handel and Haydn Society Collection of Church Music*, 2nd ed., 1823)で“Gently, Lord, oh! Gently lead us”に付けられたものが最初のものである⁽²⁰⁾。1852年頃出版されたJ. W. グリーン編の『スクール・メロディーズ』⁽²¹⁾に“Evening Song”および“Happy Days Are Gliding O'er Us”という歌詞が掲載され、マキャスキー編の『学校と家庭のための愛唱歌賛美歌集』⁽²²⁾にも“Cradle Hymn”(ト長調; これは『フランクリン・スクウェア・コレクション第1巻』⁽²³⁾からの転載)とともに“Thoughts of Wonder”という歌(いずれも作曲者名J. J. Rousseau)がある(後者は『フランクリン・スクウェア・コレクション第4巻』⁽²⁴⁾から)。また、この旋律は賛美歌・唱歌にとどまらずさまざまな歌に利用された⁽²⁵⁾。

さらに、『ボストン学校唱歌集』版の旋律は『第4ミュージック・リーダー』あるいは『新撰讚美歌』(1888; 譜付き, 1890; 「主よめぐみもて (“The Lord, Dismiss Us

with Thy Blessing”))⁽²⁶⁾の版よりも「見わたせば」に近いこと、およびルーサー・ホワイティング・メイソンがこの唱歌集をよく知っていたことを指摘しておく。「見わたせば」の旋律は *Songs of Christian Praise with Music* (1882) および *Hymn and Tune Book* (1871)⁽²⁷⁾の版と同じであり、前述の“Cradle Hymn”, 1844年出版の末日聖徒イエス・キリスト教(モルモン教)の聖歌集の“Yes, My Native Land”, 1866年の『ジュビリー・ハーブ』のGREENVILLE (No. 475; “Come, thou fount of every blessing”), 1867年の『テンプル・クワイア』のGREENVILLE (“Far from mortal cares retreating”)⁽²⁸⁾などもかなりよく似ている。なお、シェイプ・ノート賛美歌(曲名 SWEET AFFLICTION; “In the floods of tribulation”)では『サザン・ハーモニー』や『セイクレッド・ハーブ』に収録されていて、いまだに歌われている⁽²⁹⁾。

第15「春のやよひ」、第16「わが日の本」

曲は賛美歌の HAPPY LAND である。1872年日本で最初に翻訳された賛美歌の一つであって、『讃美歌』(1954) 490番「あまつみくには」に至るまで、さまざまな歌詞で歌われてきた⁽³⁰⁾。伊沢は「楽譜ハ作者ヲ詳ニセザルトモ元来天竺国ヨリ出テ欧州諸国ニ伝ワリ……」⁽³¹⁾と言う。原詩は1838年にアンドルー・ヤング(Andrew Young)が書いたもので、日曜学校歌集などを通じて普及した⁽³²⁾。原曲はインドと言われてきたが(『讃美歌』では曲を“Indian air”), 少なくとも賛美歌版はレナード・ブリードラヴ(Leonard P. Breedlove, 1850)の手になる。学校唱歌としては1852年出版のグリーン『スクール・メロディーズ』⁽³³⁾で“The Scholar’s Pledge”(Words by J. Whitman; 2声部)として採用されている。1872年出版のメイソン他編『第4ミュージック・リーダー』⁽³⁴⁾にも3声部の“Happy Land”が収録されている。

第17「蝶々」

原曲は伊沢がアメリカでルーサー・ホワイティング・メイソンに教わった歌⁽³⁵⁾であり、『ナショナル・ミュージック・チャート』に“The Boat Song”(歌詞は“Lightly row, lightly row”)⁽³⁶⁾として収録されている(出典なし)。堀内・井上編『日本唱歌集』および金田一・安西編『日本の唱歌(上)』⁽³⁷⁾などの唱歌集がこの曲を“スペイン民謡”としているのは、伊沢『唱歌略説』の「楽譜ハ其出処ヲ詳ニセザレドモ西班牙国ヨリ伝来シテ諸邦ニ行コナハレタルモノナルベシトイヘリ」⁽³⁸⁾との解説に拠っているようである(伊沢は「民謡」とは言っていないが)。しかし、これはドイツ曲であっ

て、“Alles neu macht der Mai” および“Hänschen klein” という 2 種の歌詞で現在でも広く歌われており、CD ではルチア・ポップ (Lucia Popp) の『ドイツの子供の歌と子守歌』⁽³⁹⁾ にも“Hänschen klein” が含まれている (“Alte Volksweise, Text: H. A. Kamp 1818”)

19 世紀から 20 世紀初頭のアメリカでは、ドイツ説とスペイン説とがあった。ローウェル・メイソンとウェッブ共編の『教室唱歌集』、『メイソンのノーマル・シンガー』、『ソング・ガーデン第 1 集』、マキャスキー編『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第 1 集』、およびチャプル編『ハート・ソングズ』では“Spanish Melody” とされている⁽⁴⁰⁾。もう一方では、1874 年出版の“Lightly Row” というウィリアム・ライトによる短いピアノ変奏曲では「ドイツ曲」である⁽⁴¹⁾。ウィア編『1000 歌曲集』には、“Lightly Row” および“Lovely May” の 2 編が含まれていて、後者は“Alles neu macht der Mai” の訳詞であろう⁽⁴²⁾。ローウェル・メイソンが一貫して「スパニッシュ・メロディー」としている理由は謎である。

ルーサー・ホワイティング・メイソンはドイツのホームマンの唱歌教科書から採った⁽⁴³⁾ とされるが、『ナショナル・ミュージック・チャート』版はホームマンのドイツ版ないしはそのアメリカ版 (1858) からではなく、ローウェル・メイソンの『教室唱歌集』および『ソング・ガーデン第 1 集』と歌詞 (しかも、1 番を 3 番として繰り返すこと) と題名 (“(The) Boat Song”) とがまったく同じである。なお、ルーサー・ホワイティング・メイソンは『第 1 ミュージック・リーダー』(1870) に“The Boat Song” (歌詞は 1 番のみ) を収録している⁽⁴⁴⁾。

アメリカではいつごろから“Lightly Row” の歌詞で歌われるようになったのか不明であるが、1840-50 年代には替え歌が作られている。たとえば、1849 年に“Plea for the Fugitive” (Tune: Lightly Row) という替え歌が奴隷制反対運動で有名な『リベレーター (*Liberator*)』紙 (June 29, 1849, p. 104) に掲載されている⁽⁴⁵⁾。また、グリーンンの唱歌集『スクール・メロディーズ』(1852) には、“Air—Lightly Row” として“Silently, Silently” および“Song of Addition” & “Song of Subtraction” がある⁽⁴⁶⁾。なお、ジョン・オグデン『教育学および教授法』(1859) に遊び歌 (Song: “Lightly Row”) として遊び方の簡単な記述がある (歌詞・楽譜なし)⁽⁴⁷⁾。

第 19 「閨 (ねや) の板戸」

伊沢修二は『唱歌略説』で「楽譜ハ出処ヲ詳ニセズ。其意ハ朝ノ様ヲ形状シタルナリ」⁽⁴⁸⁾ と言う。『ナショナル・ミュージック・チャート』⁽⁴⁹⁾ に“The Morning Song”

として載っている歌 (2 声部) で、ローウェル・メイソンの『ボストン学校唱歌集』⁽⁵⁰⁾ から採られたと考えられる。後者は 3 声部で、5 連の歌詞が付いており、歌詞と編曲 (上の 2 声部) は同一である (同じくハ長調; 作詞者名・作曲者名はない)。

第 21 「若紫」

曲はネーゲリ (Hans Georg Nägeli, 1773-1836) の英語版 “Charming Little Valley” からである。『インディペンデント・ミュージック・リーダー』⁽⁵¹⁾ に含まれているが (ホ長調, 4 声部, 歌詞 3 連; 作曲者 H. G. Nægeli [*sic*]), メイソンは 1870 年の『第 1 ミュージック・リーダー』⁽⁵²⁾ では “The Violet” (ハ長調, 単旋律, 歌詞 2 連; 作曲者 N. G. Nagæli [*sic*]; 歌詞 “Timid, blue-eyed flower, In thy quiet bower”) として収録していた。伊沢も「楽譜ハ瑞西国ノ大家ニテ学校用唱歌ニ有名ナル, ネーゲリ氏ノ作」⁽⁵³⁾ という。原曲名は不詳である。

アメリカでは “Charming Little Valley” Arranged for the Piano Forte by E. C. B. (E. B. Publication: Boston: G. P. Reed & Co., 17 Tremont Row, 1853) というシート・ミュージック⁽⁵⁴⁾ が出版されている。ピアノ伴奏付き, ハ長調, 歌詞 3 連で “Melody from the German” と書かれているが, 作曲者名・作詞者名等は付されていない。唱歌集では 1856 年出版『メイソンのノーマル・シンガー』⁽⁵⁵⁾ に “Charming Little Valley” (作曲者名 H. G. Nageli) が収録されていて, 『インディペンデント・ミュージック・リーダー』版は歌詞 3 連・編曲ともにこれと同一であることから, ここから転載されたものと思われる。

第 22 「ねむれよ子」

原曲はドイツの子守唄 (“Schlaf, Kindlein, schlaf”) で, レクラム版『わらべ歌集』によると歌詞はアルニムとブレンターノの『少年の魔法の角笛』から来ている⁽⁵⁶⁾。アメリカでは “Sleep, Baby, Sleep” の歌詞が知られていて, “Cradle Song” という題名もある⁽⁵⁷⁾。19 世紀中ごろには “Sleep, baby sleep, / Thy father watches his sheep; / Thy mother is shaking the dreamland tree, / And down falls a little dream on thee.” (Elizabeth Prentiss の訳詞という) などの英語歌詞ができていた。“Sleep baby! sleep, / Our cottage vale is deep” という歌詞で, 1883 年版のシート・ミュージックがあり⁽⁵⁸⁾, “Melody from the German” と書かれている。「ねむれよ子」(リズムを少し変えている) は子守唄という点では同じであるが訳詞ではない。また, “Sleep, Holy Babe” と題する賛美歌としてカトリックの『聖バジル賛美歌集』⁽⁵⁹⁾ に載

っている。これは Rev. E. Caswall の作詞であり、内容は聖母子という設定でクリスマスの賛美歌に分類されている。

第 23 「君が代」

現行版を含めて 4 曲ある「君が代」の一つである。伊沢は「楽譜ハ英国古代ノ大家ウエブ氏ノ作レルモノ」⁽⁶⁰⁾ と言っていたが、メイソンの賛美歌集では Weber とされていたので混乱していた⁽⁶¹⁾。安田寛は楽譜を添えて原曲を確定している⁽⁶²⁾。作曲家・オルガニストであったイギリスのサミュエル・ウェッブ (Samuel Webbe, Sr., 1740-1816) が 1787 年に「グリー・クラブ」(固有名詞) のために作詞・作曲⁽⁶³⁾ した“Glorious Apollo” というグリー (glee) で、ブロードサイドとしても出版され⁽⁶⁴⁾、現在に至るまでアメリカ (および日本でも) の大学グリー・クラブ (ハーヴァード、イエールなど) で歌われてきた。メイソンは、のちに自分の唱歌集⁽⁶⁵⁾ で“Land of Our Fathers” という別の歌詞の版 (イ長調) を収録したときには、作曲者名を Webbe と訂正している。

第 25 「薫にしらるる」

メノー派のシェイプ・ノート歌集『ハルモニア・サクラ』⁽⁶⁶⁾ 中の DIVINE COMPASSION (歌詞は James Allen の “Sweet the moments, rich in blessing”) である (ただし、4 声部、ト長調で、主旋律はテノール)。歌詞は『讃美歌』143 番「十字架をあおぎて」(曲名 DORRANCE) の原詩であり、曲名の DIVINE COMPASSION は歌詞 2 番 (Truly blessed is the station, / Low before his cross to lie; / While I see divine compassion, / Floating in his languid eye) から来ている。『ハルモニア・サクラ・ハンドブック』⁽⁶⁷⁾ によると、「作曲者」はウィリアム・クーパー (William Cowper, 1731-1800) で、1851 年の『ハルモニア・サクラ』(第 5 版) が初出とされている。しかし、クーパーは詩人として著名で賛美歌も多く書いているが、手元の賛美歌の解説書等では彼が「作曲」をしたことは伝えられていないし⁽⁶⁸⁾、1820 年までをカバーしている詳細なテンパリー編の『讃美歌曲目索引』⁽⁶⁹⁾ には DIVINE COMPASSION もこの歌い出しの旋律 (incipit) も含まれておらず、クーパーの「原曲」は確認できない。ワッソンの『讃美歌曲目索引』⁽⁷⁰⁾ では、DIVINE COMPASSION (1980) の他に SWEET THE MOMENTS (1843) として項目が立てられている。後者の注によれば、Lowell Mason, *Carmina Sacra: or Boston Collection of Church Music* (2nd ed., 1843) が初出で、これが「薫にしらるる」の出典であろう。

第26「隅田川」

賛美歌の HAMBURG で、『讃美歌』142 番、『讃美歌 21』297 番の「栄えの主イエスの」の曲である。『ボストン・ヘンデル・ハイドン協会教会音楽集』(*The Boston Handel and Haydn Society Collection of Church Music*, 3rd ed., 1825) に収録されたローウェル・メイソンの作品で、彼自身は「グレゴリオ聖歌 ベネディクトゥス」を出典としていて⁽⁷¹⁾、『唱歌略説』では「楽譜ハグレゴリヤン、チャント、トテ古代羅馬ノ寺院ニテ歌ヒタル短曲ヲ集メテ一曲トナシタルモノ」⁽⁷²⁾との解説がなされている。しかし、メイソンの孫である作曲家のヘンリー・メイソンは「グレゴリオ聖歌第1曲」を編曲したのではなくその精神 (spirit) を受け継いだものとしている⁽⁷³⁾。『讃美歌 21 略解』も「原曲は明らかにされていません」⁽⁷⁴⁾と言う。

第27「富士山 (ふじのやま)」

伊沢の『唱歌略説』では「楽譜ハ独乙国 [ママ] 有名ノ音楽家ヘイドンノ作ニテ日光ノ国旗ニ光輝キテ皇威ノ磐石ノ如ク千古動カスベカラザルノ意ヲ頭ハセリ」⁽⁷⁵⁾とある。しかし「富士山」の直接の原曲は賛美歌 ST. ALBAN である。ダイクス (John Bacchus Dykes, 1823-1876) がハイドンの交響曲第53番 (Symphony No. 53 in D major, “L’Imperiale”) 第2楽章の冒頭の旋律をもとにして作った賛美歌⁽⁷⁶⁾で、サンキー他の『ゴスペル賛美歌集総集編』⁽⁷⁷⁾では No. 87: “Onward Christian Soldiers” (Baring-Gould の歌詞) として収録されている。マキャスキーの『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第1集』⁽⁷⁸⁾にも、“Singing in the Rain” (Elizabeth Akers Allen [作詞者]/Arr. from Haydn, by Rev. J. B. Dykes) という同じ編曲の歌が載っている (繰り返し部分は後に移されている)。賛美歌版としてはこの他に “On Our Way Rejoicing”⁽⁷⁹⁾; “Jesus, King of Glory”; “Standing at the Portal”; “Welcome, Happy Morning” などの歌詞が配されてきた⁽⁸⁰⁾。中村洪介⁽⁸¹⁾によると、伊沢の草稿に “Brightly Gleams Our Banner” が「原歌」であると書いてあるという。この歌詞は Thomas J. Potter が 1860 年に書いたもので⁽⁸²⁾、内容は伊沢の解説に適應しているが、曲は ST. THERESA (1874) が一般的であるようだ⁽⁸³⁾。

第28「おぼろ」

曲はメイソン『ナショナル・ミュージック・チャート』⁽⁸⁴⁾に3声部 (ハ長調; 歌詞2連) で掲載されている “Murmur, Gentle Lyre” である。『新第3ミュージック・リーダー』⁽⁸⁵⁾にも同じ楽譜 (歌詞4連) がある。この曲の系譜は不明であるが、歌詞の

ほうは1847年出版の『教室唱歌集』⁽⁸⁶⁾に異なる曲で“Night Song”として載っていて、これはマキャスキー編『愛唱歌賛美歌集』にも“Murmur, Gentle Lyre”として収録されている⁽⁸⁷⁾。

第29「雨露」

曲は『讚美歌』108番（曲名 O SANCTISSIMA, O PURISSIMA）および『讚美歌21』260番（曲名 SICILIAN MARINERS）の「いざ歌え、いざ祝え」である。曲名としては他に SICILY, SICILIAN HYMN もあり、英米では“Lord, Dismiss Us with Thy Blessing”および“O Thou Joyful, O Thou Wonderful”など、ドイツでは“O du fröhliche”の歌詞で知られている。ヘルダーが1807年版の『歌謡における諸国民の声』の中で「乙女マリアによせて シチリアの船乗りの歌」として“O sanctissima! O piirissima”のラテン語歌詞で収録した歌である⁽⁸⁸⁾。印刷版の初出はロンドンで発行された *The European Magazine*, 22 (1792, pp. 385-88) とされている⁽⁸⁹⁾。ホーマンの唱歌集に収録されているとのことであるが⁽⁹⁰⁾、ルーサー・ホワイティング・メイソン編のアメリカの唱歌集等には含まれていない⁽⁹¹⁾。唱歌としてはすでにローウェル・メイソンがいくつもの歌集に収録している⁽⁹²⁾。

註

- 『学制』（文部省、1872）〔国立国会図書館近代デジタルライブラリー〕では、下等小学教科「十四 唱歌」および下等中学教科「十九 奏楽」として教科名のみを提示。
- 『小学唱歌集（初編・第二編・第三編）』（1881, 1883, 1884）は、復刻版（ほるぶ出版、1971）もあるが、以下のA, Bでデジタル画像を参照できる。高知市民図書館近森文庫でも公開される予定。Cには草稿・原稿・関連資料等があり、『唱歌掛図（初編～第三編）』（1882-1883）も『音楽取調掛時代各種資料編 巻3』に収録されている。また、『音楽取調成績申報書』（文部省、1884, pp. 233-300）〔近代デジタルライブラリー〕には歌詞のみしか収録されていないが、伊沢修二／山住正己校注『洋楽事始——音楽取調成績申報書』（平凡社・東洋文庫、1971, pp. 164-278）には楽譜も付されている（ただし、歌詞は現代かなづかいに修正）。
 - 国立国会図書館近代デジタルライブラリー（<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>）
 - 広島大学附属図書館教科書コレクション（<http://cross.lib.hiroshima-u.ac.jp/>）
 - 東京芸術大学附属図書館貴重資料データベース（<http://images.lib.geidai.ac.jp/>）
- 経緯については、山住正己『唱歌教育成立過程の研究』（東京大学出版会、1967）、野村光一『お雇い外国人——音楽』（鹿島研究所出版会、1971）、安田寛『唱歌と十字架 明治音楽事始め』（音楽之友社、1993）、中村洪介『近代日本洋楽史序説』（東京書籍、2003）。

4. Edward Bailey Birge, *History of Public School Music in the United States* (1928; rpt. Washington, D. C.: Music Educators National Conference, 1966), chaps. I-III; John Alfred Nietz, *Old Textbooks* ([Pittsburgh]: University of Pittsburgh Press, [1961]), pp. 340-56. [Nietz Old Textbook Collection, University of Pittsburgh, <http://digital.library.pitt.edu/nietz/>]
5. 石原和三郎編『小学唱歌集註解』(普及舎, 1896) [近代デジタルライブラリー]
6. 東京芸術大学附属図書館貴重資料データベース『音楽取調掛時代各種資料編 巻外 伊沢修二著「唱歌略説」に「伊沢先生自筆本」があるが, 本稿では伊沢/山住校注『洋楽事始』に付けられた注の該当箇所から引用した。
7. Luther Whiting Mason, *National Music Charts, for the use of singing classes, seminaries, conservatories, schools and families, 1st-4th series* (Boston: Ginn Brothers, 1872). [『音楽取調掛時代各種資料編 巻3』]
8. Luther Whiting Mason, *Preparatory Course and Key to the Second Series Music Charts, and Second Music Reader* (Boston: Ginn Brothers, 1873), pp. 7-11. [『音楽取調掛時代各種資料編 巻1』]
9. 安田寛『日韓唱歌の源流』(音楽之友社, 1999), pp. 75-76 and 83.
10. Luther Whiting Mason, *Primary or First Music Reader* (Boston: Ginn, Heath, & Co., [1870], 1885 [1886, on title page]), pp. 45, 8, and 44. なお, 本文の内容は同一であるが, 表紙では *Primary or First Music Reader*, 標題紙では *First Music Reader* という版がある (Boston: Ginn, Heath, & Co., [1870], 1883)。こちらが先かもしれない。
11. 「進め進め」(のちの「すずめ, すずめ, お宿はどこだ」) の原曲 (“Children Go To and Fro”; 別題 “Follow Me”) の冒頭1行目と同じ歌詞。
12. Luther Whiting Mason, James M. McLaughlin, George A. Veazie, W. W. Gilchrist, and Nathan Haskell Dole, *The Educational Music Course: First Reader* (Boston: Ginn & Company, [1896], 1901), p. 1.
13. James M. McLaughlin, W. W. Gilchrist, and George A. Veazie, *The New Educational Music Course*, 5 vols. (Boston: Ginn & Company, 1903-1906).
14. 海老沢敏『むすんでひらいて考』(岩波書店, 1986)。
15. Murl J. Sickbert, Jr., “Go Tell Aunt Rhody She’s Rousseau’s Dream.” In *Vistas of American Music: Essays and Compositions in Honor of William K. Kearns*, ed. by Susan L. Porter and John Graziano (Warren, Michigan: Harmonie Park Press, 1999), pp. 125-150.
16. 拙稿「ロディーおばさん——アメリカ民謡としてのひろがり」(海老沢敏監修『むすんでひらいての謎』キング・レコード KICG 3077, 2003, ノーツ), pp. 30-33.
17. 海老沢前掲書, p. 45-46.
18. Julius Eichberg, J. B. Sharland, H. E. Holt, and Luther W. Mason, *The Fourth Music Reader* (Boston: Ginn and Heath, [1872], 1880), pp. 116-17.
19. Lowell Mason, *The Boston School Song Book* (Boston: Wilkins, Carter and Co., [1840], 1844), p. 115.

20. Marion Hatchett, *A Companion to the New Harp of Columbia* (Knoxville: University of Tennessee Press, 2003), pp. 141-42. 第1版 (1822; rpt. New York: Da Capo, 1973) には載っていない。
21. J. W. Greene, *School Melodies* (Boston: Morris Cotton, 1852), pp. 31 and 39. [Nietz Old Textbook Collection]
22. J. P. McCaskey, ed., *Favorite Songs and Hymns for School and Home* (New York: American Book Company, 1899), pp. 118 and 339.
23. J. P. McCaskey, ed., *Franklin Square Song Collection*, No. 1 (New York: Harper & Brothers, 1881), p. 22.
24. *Franklin Square Song Collection*, No. 4 (1887), p. 41.
25. “See yon glorious star ascending” (1842) と “O, Poor Afric” (1833) という反奴隷制運動歌 (Vicki L. Eaklor, *American Antislavery Songs: A Collection and Analysis*, Greenwood Press, 1988, nos. 44 and 230), および “Up and Do” (1879) という労働運動歌 (Philip S. Foner, *American Labor Songs of the Nineteenth Century*, University of Illinois Press, 1975, p. 140; “Air—‘Rousseau’s Dream’”) など。
26. 海老沢前掲書, p. 221. この賛美歌集は近代デジタルライブラリーにある。
27. 海老沢前掲書, pp. 110-11 (譜例②④)。
28. *A Collection of Sacred Hymns, For the Use of The Latter Day Saints*, selected and published by J. C. Little and G. B. Gardner (1844; rpt. Havana, IL: Mason County History Project, [1990, 1996]), p. 44; *The Jubilee Harp: A Choice Selection of Psalmody, Ancient and Modern* (Boston: Advent Christian Publication Society, [1866], 1867), p. 235; Theodore F. Seward, assisted by Dr. Lowell Mason and Wm. B. Bradbury, *The Temple Choir: A Collection of Sacred and Secular Music* (Boston: Oliver Ditson, 1867), p. 247.
29. 楽譜 (オンライン) は *Southern Harmony*, No. 259: Sweet Affliction (http://www.ccel.org/s/southern_harmony/sharm/sharm/hymn/t=Sweet+Affliction.html); B.F. White, *The Sacred Harp* (Philadelphia: S. C. Collins, 1860, p. 146) (<http://digital.lib.msu.edu/ssb/image.cfm?TitleNo=172&Image=144>) に、歌唱録音は VOICES ACROSS AMERICA (<http://www.pilgrimproduction.net/index.html>) に3点ある。
30. 手代木俊一『讚美歌・聖歌と日本の近代』(音楽之友社, 1999), pp. 16-17.
31. 『洋楽事始』p. 33.
32. John Julian, *A Dictionary of Hymnology* (1892; 2nd ed., 1907; rpt. Dover, 1957), vol. 2, p. 1161. McCaskey, *Favorite Songs and Hymns* (p. 333); Joe Mitchell Chapple, *Heart Songs* (1909; rpt. Baltimore: Clearfield, 1999, pp. 5-6) などの一般の歌集には見出せるものの、収録している賛美歌集 (たとえば, Robert Coleman, *The Modern Hymnal*, Dallas, Texas: Broadman Press, 1926, No. 204) は少ないようである (『讚美歌略解 後編』p. 288)。
33. J. W. Greene, *School Melodies*, p. 9.
34. Eichberg, Sharland, Holt, and Mason, *The Fourth Music Reader*, p. 126.

35. 手代木前掲書, pp. 145-46.
36. L. W. Mason, *National Music Charts*, 1st series, p. 10.
37. 堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』(岩波文庫, 1958), p. 18; 金田一春彦・安西愛子編『日本の唱歌(上)』(講談社文庫, 1977), p. 33. 田村虎蔵編『教科統合中学唱歌(第2巻, 第3巻)』(東京音楽書院, 1910, 修正3版1911) [近代デジタルライブラリー] の巻末に英語版 “The Boat Song” があり “Spanish [*sic*] Volksweise” と書かれている。ついでながら, 大邨芳樹『音楽之枝折 巻下』(辻敬之, 訂正3版, 1888) [広島大学附属図書館教科書コレクション] に遊戯法・挿絵ともに載っている2点の「蝶々」(岡村増太郎作・若林虎太郎作) は歌詞が異なる。
38. 『洋楽事始』 p. 41.
39. ORFEO C 078 031.
40. Lowell Mason and George James Webb, *The Song-Book of the School-Room* (Boston: Wilkins, Carter, & Co., [1847], 1850, p. 30; “Boat Song”); Lowell Mason, *Mason’s Normal Singer* (New York: Mason Brothers, 1856, p. 146; “Boat Song”); Lowell Mason, *The Song-Garden*, First Book (New York, Boston, & Chicago: Mason Brothers, 1864, p. 54); McCaskey, *The Franklin Square Song Collection*, No. 1 (p. 24; “Lightly Row”); Chapple, *Heart Songs* (p. 129; “Lightly Row”).
41. “Lightly Row (German Air Varied) / Wm. C. Wright” (Oneonta: Dye & Saunders, 1874). [American Memory, Library of Congress, <http://hdl.loc.gov/loc.music/sm1874.07735>]
42. Albert E. Wier, ed., *The Book of A Thousand Songs* (Carl Fischer, 1918). [<http://www.web-helper.net/PDMusic/>]
43. 安田寛『「唱歌」という奇跡 十二の物語』(文春新書, 2003), p. 51. また, 安田『日韓唱歌の源流』(p. 75) にホーマンの *Praktischer Lehrgang* (1859) からの “Alles neu macht der Mai” の楽譜図版が掲載されている。
44. *Primary or First Reader*, p. 10. ただし, “Spanish melody” とはされていない。
45. Eaklor, *American Antislavery Songs*, p. 81 (歌詞のみ)。
46. J. W. Greene, *School Melodies*, pp. 6-7 and 69.
47. John Ogden, *The Science of Education; And Art of Teaching* (Cincinnati: Moore, Wilstach, Keys & Co., 1859), p. 429. [Making of America Books, <http://www.hti.umich.edu/m/moa/>]
48. 『洋楽事始』 p. 35.
49. 2nd series, p. 22.
50. Lowell Mason, *The Boston School Song Book*, p. 4. ただし, 題名に定冠詞なし。
51. Luther Whiting Mason, *The Independent Music Reader: Supplementary to the Intermediate Music Reader of the “National Music Course”* (Boston: Ginn & Company, [1883], 1889), p. 160.
52. *Primary or First Music Reader*, p. 74.
53. 『洋楽事始』 p. 40.

54. The Lester S. Levy Sheet Music Collection (<http://levysheetmusic.mse.jhu.edu/index.html>).
55. Lowell Mason, *Mason's Normal Singer*, p. 42.
56. *Kinderlieder* (Reclam, 1974, p. 4; Worte: *Des Knaben Wunderhorn* — Weise: Volksweise); 邦訳「朝うたう子ひつじの歌」(アヒム・フォン・アルニム&クレメンス・ブレンターノ/吉原高志訳『少年の魔法の角笛 童唄之巻』白水社, 2003, p. 135). 武田昭『人生と踊りに伴うドイツ民謡』(東洋出版, 1985, p. 10; 巻末譜例 1) によると, 元は「進め, 白馬, そら進め!」の旋律(巻末譜例 19)と同じものであった。
57. Chapple, *Heart Songs* (p. 323; “Cradle Song”); Dorothy Berliner Commins, ed., *Lullabies of the World* (New York: Random House, 1967, pp. 114–15; “Sleep, Baby, Sleep”) など。違う曲もある (Jane Byrd Radcliff-Whitehead, ed., *Folk-Songs and Other Songs for Children*, Boston: Oliver Ditson, 1903, p. 210; “Sleep, Baby, Sleep”)
58. “Sleep Baby Sleep” by E. C. B. (Cleveland: Brainard's Sons, S., 1883) [American Memory, Library of Congress, <http://memory.loc.gov/ammem/amhome.html>]
59. *St. Basil's Hymnal* (Chicago: John P. Daleiden Co., 1906; 32nd ed., 1925), no. 152a [p. 147].
60. 『洋楽事始』 p. 40.
61. 内藤孝敏『三つの君が代——日本人の音と心の深層』(中央公論新社, 1999, pp. 148–52), 『君が代のすべて』(キング・レコード KICG 3074), 大塚野百合『賛美歌・聖歌ものがたり』(創元社, 1995, pp. 19–24)。これらでも作曲者が確定されていない。
62. 安田『「唱歌」という奇跡 十二の物語』 p. 101。ただし, 掲載の楽譜は 8 小節短い。なお, 「君が代」との関連には触れていないが, 皆川達夫『合唱音楽の歴史』(全音楽譜出版社, 1965, p. 392; 改訂版, 1974, pp. 420–22) にウェブ作曲「はえあるアポロ」の楽譜(英語歌詞; 二長調)が載っている(初版では冒頭 8 小節のみ, 改訂版では全曲)。
63. Stanley Sadie, ed., *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, vol. 20 (London: Macmillan, 1980, s. v. Webbe, Samuel).
64. Bodleian Library Broadside Ballads (<http://www.bodley.ox.ac.uk/ballads/ballads.htm>) には 3 点(歌詞のみ; 作者名なし)が収録されている。
65. *The Independent Music Reader*, pp. 150–51.
66. *The Harmonia Sacra*, 25th ed. (Intercourse, PA: Good Books, 1993), p. 148.
67. *Harmonia Sacra Handbook* (<http://www25.brinkster.com/hsacra/jng/hb.htm>).
68. Julian, *Dictionary of Hymnology*, vol. 1, pp. 265–67; Raymond F. Glover, ed., *The Hymnal 1982 Companion*, Vol. II (New York: Church Hymnal Corporation, 1994), pp. 382–83.
69. Nicholas Temperley, ed., *The Hymn Tune Index*, 4 vols. (Oxford: Clarendon Press, 1998).
70. D. DeWitt Wasson, ed., *Hymntune Index and Related Hymn Materials*, 3 vols. (Lanham, Maryland & London: Scarecrow Press, 1998).
71. Carlton R. Young, *Companion to The United Methodist Hymnal* (Nashville: Abing-

- don, 1993), p. 692.
72. 『洋楽事始』 p. 35.
73. Armin Haeussler, *The Story of Our Hymns* (St. Louis, Mo.: Eden Publishing House, 1952), p. 213.
74. 日本基督教団讃美歌委員会編『讃美歌 21 略解』(日本基督教団出版局, 1998), p. 194.
75. 『洋楽事始』 p. 38.
76. Wasson, *Hymntune Index*によると1868年。なお, *The Church Hymnary* (London and New York: Henry Frowde, 1901, No. 406) および *Hymns Ancient and Modern* (London: William Clowes, 1924, No. 496) 収録の ST. ALBAN はいずれも別曲。
77. Ira D. Sankey, James McGranahan and Geo. Stebbins, eds., *Gospel Hymns Nos. 1-8 Complete* (New York and Chicago: Biglow and Main Co., 1894).
78. McCaskey, *Franklin Square Song Collection*, No. 1, p. 34.
79. Maria Leiper and Henry W. Simon, eds., *A Treasury of Hymns* (New York: Cornerstone Library, 1953), p. 304.
80. 後の3曲は The Cyber Hymnal (<http://www.cyberhymnal.org/>) に収録されている。
81. 中村『近代日本洋楽史序説』 p. 448.
82. Julian, *Dictionary of Hymnology*, vol. 1, p. 183; 原詩はカトリック的であるという。
83. Leiper and Simon, *A Treasury of Hymns*, p. 301.
84. 3rd series, p. 24.
85. Luther Whiting Mason, *The New Third Music Reader* (Boston: Ginn & Company, [1886], 1894), Book II, p. 12.
86. Mason and Webb, *The Song-Book of the School-Room*, p. 80.
87. McCaskey, *Favorite Songs and Hymns for School and Home*, p. 221.
88. Johann Gottfried Herder, *Stimmen der Völker in Liedern* (Reclam, 1975), pp. 373-74 (楽譜あり)。
89. 系譜については, *The Hymnal 1982 Companion*, Vol. IIIA, No. 344; Haeussler, *The Story of Our Hymns*, pp. 176-77; *Companion to The United Methodist Hymnal*, p. 470; James J. Fuld, *The Book of World-Famous Music*, 5th ed. (New York: Dover, 2000, pp. 623-24); *The New Oxford Book of Carols* (Oxford University Press, 1992, No. 180 ["O du fröliche"]); 『讃美歌 21 略解』(p. 171) を参照されたい。
90. 安田『日韓唱歌の源流』 p. 83.
91. すべてではないが10点を参照した。ただし, メイソン死後の後継の教科書である McLaughlin et al., *New Educational Music Course, Fifth Music Reader* (1906, p. 57) には含まれている (MORNING HYMN, "Heav'nly Father, ever lead us")。
92. *The Boston School Song Book*, p. 144 (SICILY, "The Lord, dismiss us with thy blessing"); *The Song-Book of the School-Room*, p. 220 (SICILY, "Praise the Lord, when blushing morning"); *The Song-Garden*, 2nd book, p. 204 (SICILY, "Heavenly Shepherd, guide me, feed, me"); *Mason's Normal Singer*, p. 186 (SICILY, "The Lord,

dismiss us with thy blessing”). ローウェル・メイソン以外では William B. Bradbury and Charles W. Sanders, *The Young Choir* (New York: Dayton and Saxton, 1844, p. 73; DISMISSION, “The Lord, dismiss us with thy blessing”); Radcliff-Whitehead, *Folk-Songs and Other Songs for Children* (p. 144; “Work (O sanctissima)”) など。

[追記]

第17「蝶々」に関して。Ernst Klusen, ed., *Deutsche Lieder*, 2 vols. (Darmstadt: INSEL, 1981) に “Alles neu macht der Mai” (vol. 1, p. 52) および “Hänschen klein” (vol. 2, p. 727) の両方が収録されている。前者の注に “T.: H. A. v. Kamp 1829. — M.: trad. 18. Jhdt.”; 後者には “T. und M.: trad. 19. Jhdt.” とある。

第23「君が代」に関して。“Land of Our Fathers” は Lowell Mason and George J. Webb, *The Boston Glee Book* (Boston: J. H. Wilkins & B. B. Carter, and Jenks and Palmer, [1838], 1843, p. 70-71) に載っていたものである。イ長調で4声部、テンポは Allegro, 作曲者は Webbe と書かれている。作曲者は伊沢のいう「ウエブ氏」であるし、この歌詞 (“Land of our Fathers! Wheresoe'er we roam, / Land of our birth! To us thou still art home; / Peace and prosperity on thy sons attend, / Down to prosperity their influence descend.”) を念頭においていたならば、国歌の候補として採用したことも理解できないわけではない。Wasson, *Hymntune Index and Related Hymn Materials* には、メイソンの賛美歌集がリストに挙がっていないこともあって、この曲は含まれていない。

第25「薫にしらるる」に関して。中村理平が作成した出典一覧表には疑問符付きで「Otto?」とあった(『キリスト教と日本の洋楽』大空社, 1996, p. 603)。Carmina Sacra は参照できなかったが、その改訂版の Lowell Mason, *The New Carmina Sacra* (Boston: Wilkins, Carter, & Co., [1850], 1851, p. 212) に OTTO (作者名・出典なし) という曲名で収録されていることを確認した。歌詞・編曲は『ハルモニア・サクラ』の DIVINE COM-PASSION と同じである。

第22「ねむれよ子」に関して。Klusen, *Deutsche Lieder*, vol. 2 (p. 706) にも収録されている。注 (p. 851) には, “T.: 1. Str. wie S. 703. weitere Strophen trad. 18 Jhdt. — M.: angelehnt an eine auf trad. Überlieferung beruhende Komposition einer anderen Text-variante von J. Reichardt. Zur ältesten bekannten Forum fgl. S. 703.” とある。